

## 診断の手引き

慢性呼吸器疾患) 大分類(気道狭窄

1

## 気道狭窄（咽頭狭窄、喉頭狭窄、気管狭窄、気管軟化症、気管支狭窄症・軟化症）

きんうきうさくPいんとうきうさく、こうとうきうさく、きかんきうさく、きかんおんかやう、  
 きかんあきうさくMoんかやう)  
 airE aF o6sQDcDo>a>d sQe>osis (i>clDdi>: pharF>: eal sQe>osis

番号

6

疾病名

気道狭窄

) 疾患概要、医療意見書等ダウンロードsこちら

## 診断方法

主要臨床症状

1. 気道狭窄による呼吸困難症状が必である
2. 気管内挿管、気管切開、鼻咽頭エアウェイの管理が必要である
3. 1か月以上人工呼吸管理や酸素療法を受けた事がある
4. 通常手術で軽快する疾患を除く

## ■ 他の重要な臨床所見および検査所見

1. 咽頭狭窄症  
呼吸性喘鳴、呼吸困難、低酸素血症、経口摂取不良が存在している  
感染を適切に治療を行って改善でき、概ね1か月以上持続している  
内視鏡検査を必須とする。たが、実施が困難な場合、単純エックス線写真、C4、03Ir 所見を総合して診断する
2. 喉頭狭窄症  
呼吸性喘鳴、呼吸困難、低酸素血症、経口摂取不良が存在している  
感染を適切に治療を行って改善でき、概ね1か月以上持続している  
内視鏡検査を必須とする。たが、実施が困難な場合、単純エックス線写真、C4、03Ir 所見を総合して診断する  
喉頭狭窄症、声門上声門下狭窄が含まれる
3. 気管M気管支狭窄症  
喘鳴、呼吸困難、低酸素血症、経口摂取不良が存在している  
感染を適切に治療を行って改善でき、概ね1か月以上持続している  
内視鏡検査を必須とする。たが、実施が困難な場合、単純エックス線写真、C4、03Ir 所見を総合して診断する  
R狭窄」とs気道径呼吸性変動が概ねいwrとる
4. 気管M気管支軟化症  
喘鳴、呼吸困難、低酸素血症、経口摂取不良が存在している  
感染を適切に治療を行って改善でき、概ね1か月以上持続している  
内視鏡検査を必須とする。たが、実施が困難な場合、単純エックス線写真、C4、03Ir 所見を総合して診断する  
R軟化症」とs気道内腔呼吸性変動が著aいwrとる。

## 当該事業における対象基準

治療(呼吸管理P人工呼吸器、気管切開術後、経鼻工アウェイ等r処置を必要とせるwrをいう。)、酸素療法、気道拡張術M形成術後、中心静脈栄養又s経管栄養rのうち一つ以上を行う場合P急性期wrを除く。)咽頭狭窄についてs、気管切開術、上顎下顎延長術を除く通常r手術Pアデノイド切除術、扁桃摘出術、咽頭形成術等)より治療せる場合s対象とaおい。

告示番号		慢性呼吸器疾患		平成( )年度 小児慢性特定疾病 医療意見書	
受給者番号( )		新規登録 ・ 継続 ・ 転入 ( 転出地: )			
患者	ふりがな 氏名	男・女	生年月日	平成	年 月 日 ( 満 歳 )
出生都道府県 <sup>※1</sup>		出生体重	g	出生週数	在胎 週
現在の身長 <sup>※2</sup>	cm	現在の体重 <sup>※2</sup>	kg	母の生年月日	昭和 平成 年 月 日
発病	年 月 頃	初診日	年 月 日		
大分類病名	1 気道狭窄	細分類病名	1 気道狭窄		
主病変	以下から1つを選択 (病変が複数ある場合には、症状の重症度が一番関与するものを選択) <input type="checkbox"/> 咽頭狭窄症 <input type="checkbox"/> 喉頭狭窄症 <input type="checkbox"/> 気管狭窄症 <input type="checkbox"/> 気管支狭窄症				
<b>1. 臨床所見</b>					
現在の症状	該当するものに○をつけ、必要な場合には ( ) 内に記載 喘鳴 ( なし ・ あり → 吸気 ・ 呼気 ・ 呼気吸気ともに ) 呼吸困難 ( なし ・ あり )    無呼吸発作 ( なし ・ あり ) 低酸素血症 ( なし ・ あり )    経口摂取不良 ( なし ・ あり ) 心不全 ( なし ・ あり )    心・大血管奇形 ( なし ・ あり ) 下気道感染の頻度 ( なし ・ あり → 年数回以内 ・ 半年に3回以上 ・ 3か月に3回以上 ・ 月に3回以上 ) その他の特記すべき症状 ( なし ・ あり → 所見: )				
<b>2. 検査所見</b>					
診断の根拠となつた主な検査等の結果	該当するものに○をつけ、必要な場合には ( ) 内に記載 (数値を用いて具体的に)    継続は現在の状況を記載 咽頭狭窄症の場合    部位 ( )    検査法 ( )    程度 ( ) 喉頭狭窄症の場合    種類 ( 声門上 ・ 声門 ・ 声門下 )    検査法 ( )    程度 ( ) 気管狭窄症の場合    種類 ( 狭窄 ・ 軟化症 )    検査法 ( )    程度 ( ) 気管支狭窄症の場合    種類 ( 狭窄 ・ 軟化症 )    検査法 ( )    程度 ( ) 上記以外に特記すべき所見 ( なし ・ あり → 所見: ) <b>血液ガス分析</b> 採血部位 ( 動脈血 ・ 静脈血 ) 酸素吸入 ( なし ・ あり → 酸素吸入条件: ) pH ( )    PO <sub>2</sub> ( ) torr PCO <sub>2</sub> ( ) torr <b>肺機能検査</b> 検査実施日 ( 年 月 日 ) VC ( ) mL    %VC ( ) % FEV1.0 ( ) mL    %FEV1.0 ( ) % FEV1.0% ( ) %				
<b>3. その他の所見</b>					
その他の現在の所見など	基礎疾患/合併症 ( なし ・ あり → 詳細: )				
<b>4. 経過</b>					
現在の治療	ステロイド使用 ( なし ・ あり → 経口 ・ 吸入 ) 現在の治療 ( なし ・ あり → 人工呼吸管理 ・ 酸素療法 ・ 気管切開管理 ・ 気管挿管 ・ 経鼻エアウェイ ・ 手術 ・ 中心静脈栄養 ・ 経管栄養 )				
過去の主な治療・検査など					
<b>5. 今後の療方針</b>					
就学・就労	1. 就学前 2. 小中学校 ( 通常学級 ・ 通級 ・ 特別支援学級 ) 3. 特別支援学校 ( 小中学部 ・ 専攻科を含む高等部 ) 4. 高等学校 ( 専攻科を含む ) ・ 高等専門学校 ・ 専門学校/専修学校など 5. 大学 ( 短期大学を含む ) 6. 就労 ( 就学中の就労も含む ) 7. 未就学かつ未就労 8. その他 ( )				
現状評価	一つに○印: 治癒 ・ 寛解 ・ 改善 ・ 不変 ・ 再発 ・ 悪化 ・ 死亡 ・ 判定不能 小児慢性特定疾病 重症患者認定基準に該当: しない ・ する ・ 不明    人工呼吸器等装着者認定基準に該当: しない ・ する ・ 不明				
治療見込期間	入院	年 月 日から	年 月 日まで		
	通院	年 月 日から	年 月 日まで	( 月 回 )	
上記の通り診断します。					
平成 年 月 日		医療機関名 および 所在地		科	
		医師名		印	
小児慢性特定疾病指定医番号					

※1 出生都道府県は母子健康手帳に記載されている出生した際に出生届を提出した住民票の所在地を記入  
 ※2 現在の身長・現在の体重は小数点1位まで記入